

■大井記念（SI）アラカルト（過去全 64 回の分析）

- ※第 1 回（昭和 31 年）から第 17 回（昭和 47 年）までは大井ダ 2,400m で実施
- ※第 18 回（昭和 48 年）から第 22 回（昭和 52 年）までは大井ダ 2,600m で実施
- ※第 23 回（昭和 53 年）から第 39 回（平成 6 年）までは大井ダ 2,500m で実施
- ※第 40 回（平成 7 年）から第 58 回（平成 25 年）までは大井ダ 2,600m で実施
- ※第 1 回（昭和 31 年）から第 47 回（平成 14 年）まではハンデキャップ競走として実施
- ※第 52 回（平成 19 年）から第 62 回（平成 29 年）までは SII として実施
- ※記録は令和 2 年 5 月 6 日時点

■ 1 番人気馬の 3 着内率はおよそ 6 割

単勝 1 番人気馬は 23 勝、2 着 7 回、3 着 10 回で、3 着内率が 62.5%、単勝 2 番人気馬は 14 勝、2 着 10 回、3 着 6 回で、3 着内率が 46.9%、単勝 3 番人気馬は 7 勝、2 着 12 回、3 着 10 回で、3 着内率が 45.3%となっている。それぞれ決して悪くはない数字だが、上位人気馬の活躍が特に目立つとまでは言えないレースだ。

■ 7 割弱の回で 3 番人気以内の馬が勝利

過去 64 回のうち 44 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めている。また、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフイニッシュ決着は 20 回、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は 7 回ある。

■ “連覇”を果たした馬は 2 頭

複数回の優勝例がある馬は、第 30 回（昭和 60 年）と第 31 回（昭和 61 年）を制したテツノカチドキ、第 37 回（平成 4 年）と第 38 回（平成 5 年）を制したハシルショウグンの 2 頭だけで、いずれも 2 年連続の優勝だ。

■ 8 割近くの回で 5 歳以下の馬が勝利

馬齢別の勝利数を見ると、4 歳が 21 勝、5 歳が 29 勝、6 歳が 10 勝、7 歳が 2 勝、8 歳が 1 勝、9 歳が 1 勝となっている。5 歳以下の若い馬が優勢と言えるだろう。

■ 牝馬、外国産馬とも 2 勝ずつ

牝馬の優勝例は、第 41 回（平成 8 年）のパールブライト、第 48 回（平成 15 年）のネームヴ
アリュート、これまでに 2 例ある。なお、外国産馬の優勝例も、第 46 回（平成 13 年）のドラ
ールアラビアン、第 51 回（平成 18 年）のエイシンチャンプと、これまでのところ 2 例だけだ。

■ 騎手別の歴代最多勝記録は「9」

騎手別の勝利数を見ると、9 勝の的場文男騎手が単独トップ。高橋三郎騎手が 8 勝で単独 2
位、佐々木竹見騎手が 5 勝で単独 3 位、石崎隆之騎手が 4 勝で単独 4 位となっている。

■ 調教師別の歴代最多勝記録は「3」

調教師別の勝利数を見ると、赤間清松調教師、岡部盛雄調教師、川島正行調教師、栗田金吾調
教師が各 3 勝でトップタイとなっている。

■ 4 枠の勝利数が飛び抜けて多い

枠番別勝利数を見ると、4 枠（15 勝）が単独トップ。2 枠（9 勝）が単独 2 位、3 枠と 8 枠
（各 8 勝）が 3 位タイとなっている。また、馬番別勝利数を見ると、4 番（10 勝）が単独トッ
プ。3 番（9 勝）が単独 2 位、8 番（7 勝）が単独 3 位、7 番（6 勝）が単独 4 位だ。なお、未
勝利の馬番は 15 番のみとなっている。

<伊吹雅也>